

Title	澤木四方吉年譜
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1993
Jtitle	哲學 No.94 (1993. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	審美学百年 資料
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000094-0266

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

澤木四方吉年譜

- 凡例 1. 資料略号: 帳=『慶應義塾入社帳』(復刻版); 史下=『慶應義塾百年史』下巻;
 文=『三田文学』; 伝=渡部誠一郎『俊秀 沢木四方吉』秋田魁新報社, 昭和60年;
 青陵日誌=濱田青陵「歐洲日誌」第12冊(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館寄託)
2. 記述を簡潔にするため「慶應義塾」の語を省略する場合がある. 例: 学報=『慶應義塾学報』

年号	西暦	歳	澤木四方吉	資料	関連事項	文化・社会
明治 19	1886		12月16日 秋田県羽後国南秋田郡(現男鹿市)船川港村字船川 101で林業・呉服反物商を営む澤木晨吉(安政5~昭和11)の五男として生まれる. 次男再吉(明治13~昭和25), 三男淳吉(明治15~昭和22), 四男堅吉(明治17~大正10, 他家養子)いずれも慶應義塾に学ぶ. 長男と六男は早世.	伝29 ・41 帳IV では 三男	福澤諭吉の発言がきっかけとなり, 慶應義塾に大学部設置の気運起こる.	3月2日 帝国大学令公布, 東京大学(明治10年創設)を帝国大学に改組. アーネスト・フェノロサ(11年来日)と岡倉天心, 渡欧. 森鷗外, ミュンヘン大学に入学.
20	1887	1			小泉信吉, 大蔵省主税官を辞し塾長に就任.	児島喜久雄東京で生まれる.
21	1888	2			ヴェルフリン『ルネサンスとバロック』	森鷗外帰国. 狩野芳崖没.
22	1889	3			福澤諭吉・小幡篤次郎・小泉信吉, 慶應義塾資本金募集. 宮内省より賜金を受ける.	岡倉天心, 27歳で東京美術学校長に就任. 『国華』創刊.
23	1890	4	父晨吉, 船川港村長に就任(間もなく船川港村が船川港町になり, 町長となる)		大学部に文学科・理財科・法律科を開設, 修学年限3か年. 文学科3年に審美学を置く. 学年を1月11日~12月25日とする.	フェノロサ帰米, ボストン美術館東洋部長に就任. 矢代幸雄横浜で生まれる.
24	1891	5				岸田劉生東京で生まれる.

25	1892	6	4月 船川港尋常高等小学校尋常科に入学。		楠秀太郎(東京外国語学校卒, 明治18年ドイツ留学), 審美学担当, 9月より森鷗外に代わる。『即興詩人』の翻訳始まる(～34年)	この頃, 帝国大学教授大塚保治, 東京専門学校(後の早稲田大学)で美学を講義。
26	1893	7			ブルクハルト, バーゼル大学退職。ヴェルフリン(29歳)その後任になり美術史を講義。	ケーベル来日, 東京大学で哲学と美学を講じる。
27	1894	8			鷗外, 日清戦争に出征し審美学講義を休講。	8月1日 日清戦争起こる。
28	1895	9	6月 兄再吉, 慶應義塾普通部に入学(後に安田銀行秋田支店に入社)	帳IV	10月 鷗外, 凱旋し教壇に戻る。	3月30日 日清休戦。大西祝(はじめ)「自然美と人間美」(『六合雑誌』第171号)
29	1896	10	船川港尋常高等小学校尋常科4年卒業, 高等科に入学。	伝31		2月 辰野金吾の設計になる日本銀行本店完成。
30	1897	11	5月 兄淳吉, 慶應義塾普通部に入学。父晨吉, 船川港町長を辞任し, 船川に澤木銀行を創業(大正6 船川銀行と改称, 同14 秋田銀行と合併)	帳IV 伝31 ・45	8月8日 ブルクハルト没, 79歳。翌年遺稿『ルーベンスの回想』『イタリア美術史への寄与』出版される。	フェノロサ再来日(～33年) 帝国大学, 東京帝国大学と改称。京都帝国大学創設。
31	1898	12			学制改革。幼稚舎6年, 普通学科5年, 大学科5年。文学科5年に美学を置く。学年を5月1日～翌年4月30日とする。10月1日 鷗外, 近衛師団軍医部長。10月中旬から軍務のため休講, 11月4日再開(学報9月号)	岡倉天心, 美術学校事件により失脚, 自ら評議員長となり橋本雅邦(主幹)・横山大観・下村観山・菱田春草らと日本美術院を創設。
32	1899	13	3月 船川港尋常高等小学校高等科3年卒業。 4月 明治学院に入学。 1月 兄堅吉, 慶應義塾普通部に入学。	伝51 帳IV	6月 鷗外, 小倉に転勤し大村西崖が審美学を担当。慶應義塾第1回留学生として神戸寅次郎・気賀勘重・川合貞一・堀江歸一・名取和作派遣。ヴェルフリン『古典美術』出版。	6月 森林太郎・大村西崖同編『審美綱領』(日本橋春陽堂), 9月 高山樗牛『近世美学』(日本橋博文館)刊行。

年号	西暦	歳	澤 木 四 方 吉	資料	関 連 事 項	文 化 ・ 社 会
明治 33	1900	14	1月 慶應義塾普通部1学年B組に編入学。保証人は交詢社事務長岡本貞休。同時に阿部章蔵(明20年生まれ、作家水上瀧太郎)が編入学。 5月、2学年に進級。	帳IV 673	文学・理財・法律・政治の分科制廃止される。美学の講座が消滅する。	2月 森林太郎編『審美新説』(日本橋春陽堂) 大西祝没。波多野精一、東京専門学校で哲学哲学史講義。
34	1901	15	5月11日 母タキ没、享年39歳。	伝30	福澤諭吉没、享年66歳。文学科最後の学生が卒業して以後中絶し、外人教師ペリー帰米。ヴェルフリン、ベルリン大学教授に就任。	植村正久と海老名弾正、キリスト教神学論争を展開。 波多野精一『西洋哲学史要』
35	1902	16				東京専門学校、早稲田大学と改称。
36	1903	17	この頃、キリスト教に関心を抱く。	伝59	3月 専門学校令公布される。新学則により大学部を予科2年、大学3年とする。	早慶対抗野球試合始まる。 日本YMCA同盟成立。
37	1904	18	4月 普通部卒業。 5月 大学部予科に入学。		大学部本科に政治・理財・法律・文学の4科を設置し、文学科3年に美学を置く。	岡倉天心、五浦に住み、横山大観・下村観山らを指導。
38	1905	19			ヴェルフリン『アルブレヒト・デューラーの芸術』出版。	日露戦争(明治37~)終わる。
39	1906	20	4月 予科卒業。 5月 文学科に進学。 この頃、キリスト教から離れる。	伝59	美学を東京大学教授大塚保治、美術史を東京美術学校教授大村西崖が担当。 慶應義塾評議員会、大学院設置を議決。12月創立五十年記念図書館建設の募金始まる。	岸田劉生、数寄屋橋教会で及川勇五郎牧師より受洗。昭和2年に『日本の花嫁』の著者田村直臣牧師の肖像を描く。
40	1907	21	3月 兄淳吉、法律科卒業。		慶應義塾開塾50年を祝う。 美学を大塚保治、美術史を大村西崖が担当。	波多野精一、東京帝国大学で「原始基督教」を講義。

41	1908	22	◇「蛇に螫されつゝある時代」(学生雑誌『三田評論』3月号)筆名澤木潮鳴。◇小説「行く雲」(同誌)筆名うしお生。◇文芸評論「自然主義論」(学生雑誌『三田評論』6月号)筆名澤木潮鳴。		美学を東京大学教授瀧精一、美術史を大村西崖が担当。	7月 永井荷風帰国。 10月 上田敏帰国。 11月 荷風、鷗外を訪問。 波多野精一『基督教の起源』
42	1909	23	3月 文学科卒業。4月 文学科主任川合貞一の推薦で普通部英語教員となる(「学事報告」)サノサ節を戯作する(日本新聞記者谷河梅人「秋田めぐり」、滝澤武編『知られたる秋田』民友社)	学籍簿	美学を瀧精一、美術史を大村西崖が担当。 11月 慶應義塾図書館建設募金30万円を越え安礎式を挙行。	高村光太郎、フランスから帰国。 バーナード・リーチ来日。
43	1910	24	◇「ニイチエの超人と回帰説」(『三田文学』8・10月号)筆名澤木梢。		2月 評議員会、陸軍軍医総監森鷗外と京都大学教授上田敏を文学科顧問に委嘱、文学科刷新。文哲史の3専攻とし哲学3年に美学、史学3年に美術史を置く。永井荷風・小山内薫ら文学科教授に就任。美学を川合貞一、芸術史を東京美術学校教授岩村透が担当。	川合貞一を会長として三田哲学会発足。 4月 『白樺』創刊。 5月 永井荷風を主幹として文学科機関誌『三田文学』創刊。
44	1911	25	◇小説「夏より秋へ」(『三田文学』4月号)筆名若樹末郎。◇5月「故小幡直吉君小伝」(小幡直吉遺稿『詩集 濁流のうた』)◇「無名詩人の生い立」(『三田文学』8月号)筆名L・L生。		美学を川合貞一、芸術史を岩村透が担当。	西田幾多郎『善の研究』 『三田文学』7・10月号、発売禁止となる。 10月 白樺主催泰西版画展。
45 大正 1	1912	26	4月より文学科で美学・ドイツ語を担当。 7月 慶應義塾留学生としてドイツに出発。 9月 マルセーユ着、リヨンとパリに滞在。パリで与謝野鉄幹・晶子に会う。10月 ベルリン着、この頃ブルクハルトの著作耽読か(『美術の都』序)◇「ふらんす印象派」(『三田文学』6月号)筆名澤木梢。◇「伯林(ベルリン)通信」(『秋田魁新報』12月1日号より5回連載)筆名澤木四方吉。	学事報告	芸術史を岩村透が担当。 5月 工学博士曾禰達蔵、工学士中條精一郎の設計になる慶應義塾図書館(重要文化財)完成。 政治科の小泉信三と理財科の三邊金蔵、慶應義塾留学生となる。11月 小泉ロンドン着。 ヴェルフリン、ベルリンを去りミュンヘン大学教授に就任。	2月 白樺主催第4回美術展にロダン、ルノワールの作品展示。3月2日 小山内薫らにより輸入の文芸活動写真上映される。4月27日 萱野二十一(郡虎彦)「道成寺」初演。7月30日 明治天皇没。 10月 フェウザン会展開く。

年号	西暦	歳	澤木四方吉	資料	関連事項	文化・社会
大正 2	1913	27	<p>1月30日 ベルリンでヒルデブラント『造形芸術における形式の問題』購入。</p> <p>3月 ミュンヘンに移り、ヴェルフリンの講義を聴く。現代美術を見るために画廊めぐりをする。</p> <p>8月から2か月パリ滞在、島崎藤村と同宿。その間に咯血。年末カンディンスキーをシュヴァーピングの自宅に訪問。大正6年の「カンディンスキーといふ人」で「いやな奴」と思ったと酷評。</p> <p>◇「巴里で観た絵画」(『三田文学』大正2年1月号 後に「幼き目にて一渡欧匆匆の絵画評」と改題) 筆名澤木梢。</p> <p>◇「Kandinskyの為に」(『三田文学』8月号 後に「カンディンスキー是非」と改題) 筆名澤木梢。</p> <p>◇「美術の都」(『三田文学』9月号) 筆名澤木梢。</p>		<p>美学を阿部次郎、美学研究会を川合貞一、芸術史を岩村透が担当。11月 小泉信三、ベルリンに移る。</p> <p>12月 大ホール(大講堂) 起工。</p> <p>_____</p> <p>ヴェルフリンのミュンヘン大学における講義 1913年夏学期: 「イタリアのルネサンス美術」「ミュンヘンの建築」「美術史演習」 1913/14年冬学期: 「中世・近世の建築様式の形成(特にドイツ建築史との関連において)」「版画史」「様式分析演習」 「ルネサンス美術史の権威と仰がるるハインリッヒ・ウォエルフリンの講義を最も傑れたるものとして傾聴した。」 (澤木梢『美術の都』序)</p>	<p>3月 森鷗外・黒田清輝・岩村透らにより国民美術協会設立される。</p> <p>9月2日 岡倉天心没、享年52歳。</p> <p>10月 白樺主催梅原龍三郎滞欧作展。</p> <p>京都帝国大学助教授濱田耕作(青陵、考古学者、明治14年生まれ)シベリア経由でヨーロッパに留学し、英・仏・伊およびギリシアに滞在。</p> <p>児島喜久雄、東京帝国大学文科大学哲学科(美学専修)を卒業。</p>
3	1914	28	<p>4月 若い建築家とニュルンベルクとバンベルクを見物(「巴里にて」「伊太利亜の旅」)</p> <p>8月12日第1次大戦開戦を前にミュンヘンからベルリンに行く。16日 小泉・三邊・小林とベルリン脱出、オランダ経由ロンドンに避難。一時ケンブリッジ大学に籍を置く。◇「美術サロンを訪ねて」(『三田文学』3月号) 筆名澤木梢。◇「シュワーピングより(ミュンヘンだより)」(『三田文学』10月号 後に「シュワアピングの人々」と改題) 筆名澤木梢。◇「独逸に於ける開戦前後の経験 英京龍動(ロンドン)にて」(『秋田魁新報』大正4年2月18日より7回連載) 筆名澤木梢。</p>	<p>文昭 6年 1</p>	<p>美学を阿部次郎、美学研究会を川合貞一が担当。岩村透の芸術史は休講。</p> <p>5月 小林澄兄(文学科)、慶應義塾より海外留学を命じられる(6年3月帰国)</p> <p>_____</p> <p>ヴェルフリンは研究休暇のため1914年夏学期休講。</p>	<p>3月 辰野金吾の設計になる東京中央停車場(東京駅) 駅舎完成。</p> <p>7月28日 第1次大戦勃発。</p> <p>8月23日 日本、ドイツに宣戦布告。</p> <p>10月 石井柏亭・有島生馬・梅原龍三郎・坂本繁二郎ら二科会を設立。</p>

4	1915 29	<p>ロンドンで咯血。8月 ロンドンを出発、パリで島崎藤村に再会（「巴里にて」）。リヨンに滞在。9月16日 ジェノヴァ着。ピサ、フィレンツェ、シエナを経て、10月7日ローマに入る。10月14日ローマで濱田青陵に会う。16日 青陵の案内でカンパーニアへ行く。30日 青陵とトラスターヴェレへ行く。11月14日 青陵とローマからフィレンツェへ行く。15日 単身ラヴェンナへ行く。11月末 パリで青陵と再会。</p> <p>◇「巴里にて」（『三田文学』11月号）筆名澤木梢。◇「伊太利へ」（『三田文学』12月号 後に「伊太利亜の旅」と改題）筆名澤木梢。</p>	青陵 日誌	<p>芸術史を岩村透が担当。阿部次郎休講。 4月 大ホール竣工。6月開館式挙行。設計は図書館と同じく工学博士曾禰達蔵、工学士中條精一郎。（関東大震災後、大正13年に修理。その時ユニコン像できる。昭和20年戦災により壊滅し、その跡地に学生ホールが建ち、後にここに慶應義塾創立百年記念事業として現在の西校舎が建つ） ヴェルフリン『美術史の基礎概念』出版。</p>	<p>矢代幸雄、東京帝国大学を卒業。岩村透教授の後任として東京美術学校の英語と西洋美術史の講師となる。 10月 『中央美術』創刊。 ヨーゼフ・ガントナー（1896-1988）、チューリヒのギムナジウムの歴史教師オットー・マルクヴァルトによりヴェルフリンに紹介され、ミュンヘン大学で美術史を学ぶ。</p>
5	1916 30	<p>1月24日 伏見丸でロンドンを出帆し喜望峰回りで帰国。濱田青陵と偶然に同船となり、船中で交わりを深める。3月22日 神戸港着。 4月より文学科で美学、予科でドイツ語を担当。 6月 『三田文学』主幹となる。 8月 小学校訓導石川みね子（明治29年生まれ）と結婚。芝区高輪車町51に新居を構える。</p> <p>◇「フィレンツェより」（『三田文学』1月号 後に「伊太利へ」と合わせて「伊太利亜の旅」と改題）筆名澤木梢。 ◇「羅馬の秋」（『三田文学』7月号）筆名澤木梢。 ◇「二科展覧会評」（『三田文学』11月号）筆名澤木梢。 ☆6月 講演「伊太利の旅—美術見学者の手引」三田演説会（要旨を『三田評論』8・9月号に記載）</p>	伝 136	<p>3月22日 評議員会、永井荷風の退職を決定する。 芸術史（古代美術史）を岩村透が担当。阿部次郎は文学評論を担当（大正10年まで）</p>	<p>6月 タゴール来日。 7月9日 上田敏没（明治7年生まれ） 12月9日 夏目漱石没（慶応3年生まれ） 西田幾多郎のもとで京都哲学会発会。 生田長江訳『ニイチェ全集』（新潮社）発刊される。（澤木が『美術の都』初版の序で「吼号する者の声でなければ衆の耳には徹し難いものと見える」とニーチェの流行を指摘する背景として全集刊行が考えられる） 朝永三十郎『近世における私の自覚史』</p>

年号	西暦	歳	澤 木 四 方 吉	資料	関 連 事 項	文 化 ・ 社 会
大正 6	1917	31	<p>文学科で美学を担当。ギリシア美術論を書く。 ◇「印象派より立体派未来派に達する迄」(『三田文学』1月号 後に「立体派未来派論—その発生の理路及其の価値」と改題) 筆名澤木梢。 ◇「カンディンスキイといふ人」(『新潮』3月号) 筆名澤木梢。 ◇「花の都」(『中央公論』4月号) 筆名澤木梢。 ◇「エニユス・ド・ミロの謎」(『三田文学』3・5・6・7月号 後に「ミロのエヌスが謎」と改題) 筆名澤木梢。 ◇「アフロヂットの脱衣」(『中央美術』8月号 後の自筆原稿で「アフロヂイテの脱衣」に改題、さらに初出誌に朱を入れ「アフロヂイテの脱衣」と改題。文中にも表記の変更あり) 筆名澤木梢。 ◇「二科會及美術院—その第四回洋画展覧會評」(『三田文学』10月号) 筆名澤木梢。 ◆11月 『美術の都』を日本美術学院より出版、筆名澤木梢。巻頭に「故 上田敏先生に」と献呈の辞を書く。 内容 序／「花の都」／伊太利亜の旅／羅馬の秋／美術の都／美術サロンを訪ねて／カンディンスキイ是非／シュワアビングの人々／カンディンスキイといふ人／巴里にて／幼き目にて／付録 立体派未来派論 森鷗外に『美術の都』を贈呈する(「関連事項」参照) ☆11月 講演「日本美術の現在及将来」大阪三田同窓会。</p>		<p>4月16日 医学科を創設。 美学研究会を川合貞一、芸術史を岩村透が担当。8月17日 岩村透没(明治3年生まれ)</p> <p>森鷗外、澤木の『美術の都』贈呈に謝して次の書簡を送る。</p> <p>高 著 御 惠 與 被 下 忝 奉 存 候 上 田 君 遺 稿 ノ ツ ヰ キ ヲ 見 ル 心 地 イ タ シ 候 デ チ カ シ ョ ン 至 極 適 當 ト 奉 存 候 三 十 日 森 林 太 郎 澤 木 学 兄</p> <p>高著御惠与下され忝く存じ奉り候 上田君遺稿のつづきを見る心地いたし候 献呈の辞至極適當と存じ奉り候 [11月] 30日 森 林 太 郎 澤 木 学 兄</p> <p>澤木は大正15年の第2版の巻頭にこの写真版を掲げ、序に「献本の趣旨の徹した喜びを表はすべく、之は許さるべきであらうと信ずる」と記す。</p>	<p>8月 わが国最初の私立美術館として東京に大倉集古館開館。 大西克禮『美学原論』、阿部次郎『美学』、坂口 昂『世界における希臘文明の潮流』出版される。</p>

7	1918	32	<p>美学および美術史を担当。ギリシア神話を講義。 ◇「レオナルド・ダ・キンチ」(『三田文学』1・3・4・6月号 後に「レオナルド・ダ・ヴインチーその前半生」と改題) 筆名澤木梢。 ◇「最後の晚餐」(『三田文学』8月号 後に「レオナルド・ダ・ヴインチーその前半生」と改題) 筆名澤木梢。文末で「本文は本誌に連載の『レオナルド・ダ・キンチ』の続稿であるが、之を独立の一章と見ても差支えない」と断る。 ◇「美術院洋画批評」(『時事新報』9月下旬) 筆名澤木梢。☆4月20日 講演「印象派と未来派」國華社清話會。</p>		<p>美学研究会を川合貞一が担当。 守屋謙二(1898~1972),大学予科に入学。</p>	<p>鈴木三重吉『赤い鳥』創刊。 (澤木四方吉が葉山で鈴木三重吉に会うのはこの頃か) 濱田青陵『希臘紀行』(大燈閣) 澁澤栄一, 田園都市株式会社を創業, 田園調布住宅地開発に乗り出す。後年田園調布に澤木家別邸建つ。 11月 第1次大戦終わる。</p>
8	1919	33	<p>美学および美術史担当。ギリシア美術史講義始まる。「希臘美術史講義案」(『西洋美術史研究』上巻ならびに『西洋美術史論攷』所収)の第1編「史前のギリシア美術及びギリシア美術の起源」を講じる。9月より瀧精一の推薦により東京帝国大学文科大学に講師として出講, ギリシア美術史を講じる。 ◇「モレルリの美術論」(『三田文学』1月号 後に「モレリの美術論」と改題) 筆名澤木梢。 ◇「ミュンヘンの憶ひ出」(『中外』1月号) 筆名澤木梢。 ◇「失はれたるアトランチス」(『三田文学』5・7月号) 筆名澤木梢。 ☆6月上旬 講演「現代の洋画」第一高等学校柏葉會。 ☆12月11日 講演「ギリシア史前の美術の発見の端緒」保険協會。</p>		<p>大学令公布される。 美学研究会を川合貞一, 東洋美術史を福井利吉郎が担当。</p>	<p>田辺元(明治18~昭和37), 西田幾多郎の招きにより東北帝国大学から京都帝国大学に移り, 助教授に就任。 和辻哲郎『古寺巡礼』</p>

年号	西暦	歳	澤木 四方 吉	資料	関 連 事 項	文 化 ・ 社 会
大正 9	1920	34	文学部に美術史科が新設される。澤木、教授となる。美学・西洋美術史・研究会を担当。「希臘美術史講義案」第2編「ギリシア建築史」を講じる（東大では秋から） 6月中旬 芝区高輪南町45に転居。 ◇「二科會及美術院の洋画一合評」（『三田文学』10月号）筆名澤木梢。 ☆1月23日 講演「ビザンツ式建築に就いて」東京帝国大学美学会。 ☆6月16日 講演「アキレスの盾」三田芸術学会第1回例会。☆11月13日 講演「美学と美術史」三田芸術学会第1回公開講演。	文7 文12	大学令による慶應義塾大学発足。予科3年，学部3年（医学部は4年）となる。 美学研究会を川合貞一，東洋美術史を福井利吉郎が担当。安部能成が哲学史を講義。 6月 三田芸術学会発足。「三田芸術学会慶應義塾大学文学部の美術史科を中心にして如上の學術研究会が設立され，6月16日其第1回例会が開かれた」（『三田文学』7月号） 11月13日 三田芸術学会第1回公開講演で澤木の講演の他に，山本鼎「我が立脚点」，郡虎彦（萱野二十一）「豊熟の芸術」の講演あり（『三田文学』12月号）	早稲田大学，大学令による大学設置認可。 児島喜久雄，バーナード・リーチにエッチングを習う。 リーチ，イギリスに帰る。 ガントナー，ミュンヘン大学に論文「ミケランジェロ・レオナルドからゲーテに至るその芸術の意義。美術史編纂の理念史への寄与」を提出し，学位を取得。
10	1921	35	美学・西洋美術史・研究会を担当。東大に出講。「ギリシア彫刻史」と「希臘美術史講義案」第3編「ギリシア彫刻史」を講じる。留学する矢代幸雄を在英の郡虎彦に紹介。兄堅吉没（36歳）父晨吉主宰の男鹿夏期大学講師斡旋。☆1月 大阪時事新報社文化講演会で講演。☆1月29日 講演「トロヤの遺跡」東京帝国大学史学会。	伝 150	美学研究会を川合貞一，東洋美術史を福井利吉郎と田中豊蔵が担当。阿部次郎は古典研究を担当。	児島喜久雄と矢代幸雄，相次いで渡欧。 ガントナー，ヴェルフリンに随伴しイタリアへ旅行。 大原孫三郎収集の現代フランス名画展を倉敷小学校で開く。
11	1922	36	西洋美術史・研究会を担当。「ギリシア彫刻史」4月上旬より気管支カタルを患う。9月 発病，休講，東大講師辞任。11月27日より鶴沼海岸で転地療養。◇「クニドスのデメテル—ギリシア美術の MARIA 像」（『三田文学』4月号）本名。 ◇「文壇のネストル」（『三田文学』8月号 鷗外先生追悼号）本名。	文5 文12	東洋美術史を田中豊蔵が担当。阿部次郎，辞任。美学を大西克禮，古典研究を和辻哲郎が担当，川合貞一は芸術の民族心理学的考察を講じる（『三田文学』4月号） 7月9日 森鷗外没，享年61歳。10月7日三田文学会主催文芸講演会で芥川龍之介らが講演。	11月 アインシュタイン来日，三田大ホールで相対性理論について石原純の通訳で講演。 尾崎弴堂が三田大ホールで軍縮演説。

12	1923	37	快方に向かい4月より毎週水木に鶴沼の仮寓から上京して出講。鶴沼で関東大震災にあう。震災後、東京中野桃園に転居。12月 鎌倉極楽寺に転居して静養。	文5 文13 年1	美学を大西克禮、西洋美術史を板垣鷹穂、東洋美術史を田中豊蔵が担当。守屋謙二(明治31.8.29生)、文学部哲学科卒業。折口信夫、文学部講師に招かれる。	1月 『文藝春秋』創刊。 9月1日 関東大震災発生。 留学中の児島喜久雄、東北帝国大学助教になる。
13	1924	38	療養のため休講。 10月 円覚寺に近い鎌倉町扇ヶ谷(はしがや)の新居に移る。 父晨吉、郷里で澤木奨学金を設立。	文11 伝 150	美学を大西克禮、西洋美術史を板垣鷹穂、東洋美術史を田中豊蔵が担当。ヴェルフリン、ミュンヘンからチューリヒ大学に移る、60歳。児島喜久雄、ヴェルフリンの自宅訪問。	京都大学教授深田康算、京都教育会婦人講座で10回連続の講義「芸術一般」を行なう。 築地小劇場開場。
14	1925	39	『三田文学』3月号で休刊、主幹を辞す。 ◆7月 『レオナルド・ダ・ヴィンチ その前半生』を東光閣書店より出版。 内容 レオナルド・ダ・ヴィンチ(「レオナルド・ダ・キンチ」と「最後の晩餐」を合本) / 付録「モレリの美術論」		美学を大西克禮、西洋美術史を板垣鷹穂、東洋美術史を田中豊蔵が担当。守屋謙二、大学予科教員となる。 5月 佐々木能理男(昭和31年以降、竹内敏雄と交代で隔年に美学特殊を担当)らにより『映画評論』創刊。	ガントナー『スイスの都市』出版。 3月 東京放送局、試験放送開始。
15 昭和 1	1926	40	体調回復して西洋美術史を講義。 9月7日 ミュンヘンで書籍の保管を委託した旧友より来信。9月8日 板垣鷹穂、児島喜久雄を案内して来訪。「近頃になき愉快的日なりき」 ◇「美術史家ヴェルフリン」(『思想』1・4月号)本名。 ◆2月 『美術の都』改版を東光閣書店より本名で出版。巻頭に森鷗外の書簡の複製版を掲げる。「ミュンヘンの憶ひ出」を増補。装丁有島生馬。 ◇「裸体の羞恥感」(『文藝春秋』5月号)筆名澤木梢。 ◇「ルネサンス」(『大阪朝日新聞』8月17日付「一日一文」)本名。	文6 年2	美学を大西克禮、西洋美術史を板垣鷹穂、東洋美術史を丸尾彰三郎が担当。 4月 水上瀧太郎を中心にして『三田文学』復刊。水上『三田文学』5月号に「島崎藤村先生のこと」でイタリア旅行後のパリにおける澤木に触れる。深田康算『美』1月号、大西克禮『現代美学の問題』(岩波書店)でヴェルフリンの『美術史の基礎概念』論じる。澤木、「ヴェルフリンの『美術史上の基礎概念』」の序でそのことに言及。深田の論文については『思想』編集長の林達夫から聞く。菅沼貞三(明治33.12.11生)、文学部美術史科卒業。	三木清『パスカルに於ける人間の研究』 7月 児島規喜久雄帰国、東北帝国大学に赴任。 矢代幸雄帰国、 11月 『美術新論』創刊。 12月25日 大正天皇没。

年号	西暦	歳	澤木 四方吉	資料	関 連 事 項	文 化 ・ 社 会
昭和 2	1927	41	自宅療養のため休講。2月28日 児島喜久雄、仙台からヴェルフリン『ザーロモン・ゲスナー』を贈り、「かの忘れがたき日の思い出のために」とドイツ語で記す。◇「ヴェルフリンの『美術史上の基礎概念』」(『思想』11・12月号)本名。		美学を大西克禮と金田廉、西洋美術史を板垣鷹穂、東洋美術史を丸尾彰三郎が担当。 3月7日 大村西崖没、享年60歳。 7月24日 芥川龍之介自殺、享年36歳。	濱田青陵、ミハエリス『美術考古学発見史』を翻訳出版。 岩波文庫発刊。 平凡社『世界美術全集』刊行始まる。
3	1928	42	自宅療養のため休講。この頃、矢代幸雄来訪。父晨吉・兄再吉ら家族、田園調布に別邸を建て転居。四方吉の容態を気づかってとも、税金対策のためとも言われる。	伝 158・ 170	文学部、哲・史・文の3学科制を廃し15学科に分ける。美術史学科を置く。大西克禮休講、美学を金田廉と守屋謙二、西洋美術史を板垣鷹穂、東洋美術史を丸尾彰三郎が担当。金田廉訳、フィードラー『芸術論』(第一書房)刊行。守屋謙二「抽象の美—ヴォーリンガー学説による一つの展望」(『哲学』4)	西田幾多郎、京都帝国大学を退官。 大原コレクションの泰西美術展、東京府美術館で開く。 上野・浅草間に地下鉄開通。 ガントナー『ヨーロッパ都市の基本形式』
4	1929	43	1月25日 最後の出講、以後自宅療養。5月23日 福本書院より『ブルクハルト全集』の2巻届く。第2巻『コンスタンティヌス大帝の時代』と第7巻『世界史的考察』か。◇「ギリシア美術概観」(春秋社『大思想エンサイクロペディア』第12巻)	文 6 年 2	美学を大西克禮と守屋謙二、西洋美術史を板垣鷹穂、東洋美術史を丸尾彰三郎が担当。『ヤーコプ・ブルクハルト全集』全14巻刊行始まり、1934年完結。澤木、碩学の死後30年しての全集出版を「実に意想外」と慨嘆。	1月 日本名宝展開く。3月 国宝保存法公布。8月 ドイツ飛行船「ツェッペリン伯号」霞ヶ浦に来る。12月20日 岸田劉生没、享年39歳。
5	1930		1月12日 日記に「此頃書きたいと思ふ小論文」として「イタリア十五世紀の様式に就いて」「パルテノン その様式的考察」「法隆寺金堂と、その壁画(様式的考察)」をあげる。 11月7日午前10時 肺結核のため自宅で逝去、享年43歳。横浜市鶴見の総持寺に埋葬される。法名「玲梢院黙堂維庵居士」。児島喜久雄「澤木君を悼む」(『東京朝日新聞』11月15日付)	文 6 年 2	美学を大西克禮、美学演習を守屋謙二、西洋美術史を板垣鷹穂が担当。東洋美術史は休講。 美術史科の第1回卒業生 勝本清一郎『前衛の文学』刊行。	6月 黒田記念館、帝国美術院付属美術研究所となる。 9月 中井正一・長廣敏雄ら京都で『美批評』創刊。 11月 大原美術館開館。九鬼周造『「いき」の構造』東京神戸間に特急「燕」運転開始。米価暴落する。

6	1931	『三田文学』1・2・3月号で「故澤木四方吉氏追悼記」特集。2月号に島崎藤村「澤木梢君のおもひで」、濱田青陵「澤木梢君の思出」を寄稿。 7月 みね子夫人、四方吉の旧蔵書417点、680冊（洋書412点、675冊；和書5点、5冊）からなる「サワキ文庫」を慶應義塾図書館に寄贈する。 みね子夫人、鎌倉の自宅を処分、小石川の姉大江きくじ（建築家大江宏夫人）邸に身を寄せる。 ◆遺稿集『西洋美術史研究』下巻（ルネサンスの部）相内武千雄編で岩波書店より刊行される。	史下 244 伝37 ・164	美学を大西克禮、美学演習を守屋謙二、西洋美術史を板垣鷹穂が担当。東洋美術史は休講。 ヴェルフリン『イタリアとドイツ的形式感情』	8月 松竹蒲田、日本初の本格的トーキー映画、五所平之助監督「マダムと女房」封切られる。 9月 岩波書店『ヘーゲル全集』刊行開始。 9月18日 満州事変起こる。
7	1932	父晨吉、四方吉の菩提を弔うため郷里、船川港町の別荘「楽水亭」大龍寺に寄進、寺ここに移る。 ◆遺稿集『西洋美術史研究』上巻（ギリシアの部）守屋謙二編で岩波書店より刊行される。		この年以降、大西克禮（～9、11、13、15、17前期～19前期）、板垣鷹穂（～14、17後期～19前期）、丸尾彰三郎（9～19前期）が出講。	
8	1933			ヴェルフリン「チューリヒ—古き都—」を執筆。ヴェルフリンの唯一の都市論となる。	1月 ヒトラー内閣成立。
9	1934			守屋謙二訳、ヴァルター・パッサルゲ『現代美術史理論』（春秋社 昭和39年再版） ヴェルフリン、70歳でチューリヒ大学退職。	8月 ヒトラー総統となる。
11	1936	父晨吉没、享年77歳。 守屋謙二、ヴェルフリン『美術史の基礎概念』の翻訳（岩波書店刊）を澤木の霊前に捧げる。			
12	1937			守屋謙二、文学部助教授に就任、「川原慶賀筆くボロムホフ家族図について」（『美術研究』65）を発表。	7月 日中戦争始まる。 児島喜久雄、東京帝国大学助教授になる。

年号	西暦	歳	澤木四方吉	資料	関連事項	文化・社会
昭和 13	1938				文学部に哲学・史学・文学の3学科15専攻復活。美術史学科，文学科芸術学専攻となって存続。守屋謙二訳，ヴェルフリン『美術品の説明』（『画説』9月号）	濱田青陵没（明治14～）
14	1939				年末 守屋謙二渡欧，ミュンヘン大学留学。児島喜久雄，西洋美術史を担当（～15年）	
15	1940				ヴェルフリン『美術史論考』出版。 西田幾多郎出講，西洋哲学を講義。	
16	1941				9月 守屋謙二，ベルリン大学でヴィルヘルム・ピンダーの講義を聴く（～17年7月）	6月 独ソ戦始まる。 12月 太平洋戦争勃発する。
17	1942		◆遺稿集『西洋美術史論攷』相内武千雄編で慶應出版社より刊行される。これに小泉信三「序」と児島喜久雄「美術史家澤木四方吉」を収録。 『三田文学』11月号「美術特輯」，「故澤木四方吉先生十三回忌に際して」とし遺稿3編ほか掲載。		守屋謙二，ライプツィヒ大学日本研究所講師となり，日本語・習字・日本美術を教える。 児島喜久雄，西洋美術史を担当（～19年）	
18	1943				9月 西川新次，文学科芸術学専攻を卒業。	8月22日 島崎藤村没，72歳
19	1944		澤木家，田園調布の別邸を引き払い本宅に帰る。			
20	1945				6月末 守屋謙二帰国。9月1日付で文学部教授となる。	5月7日 ドイツ、無条件降伏。7月19日 ヴェルフリン没，81歳。西田幾多郎没。 8月15日 太平洋戦争終結。

22	1947			4月 普通部3年制中学校となる。男女共学の中等部開校。	
23	1948	◆澤木四方吉『ギリシア美術』（大丸出版社）		守屋謙二「廃墟について」（『群像』11月号）高等学校開校。幼稚舎，男女共学となる。	学制改革，新制高校・新制大学発足。
24	1949			3月 文学科芸術学専攻，八代修次と飯田善國の2名を卒業させ，その歴史を閉じる。 4月 新制の慶應義塾大学の設置に伴い，文学部哲学科美学美術史学専攻が発足。 菅沼貞三講師，東洋美術史概説と同演習を担当。	1月26日 法隆寺金堂火災，壁画消失。澤木四方吉，没年の1月12日の日記に「此頃書きたいと思ふ小論文」の一つに「法隆寺金堂と，その壁画（様式的考察）」をあげる。
25	1950	澤木みね子夫人，慶應義塾女子高等学校の講師に招かれ，昭和37年まで書道を教える。		村田武雄（26年以降隔年）と谷口吉郎（隔年）が出講。4月 女子高等学校開校。 7月5日 児島喜久雄没，享年62歳。	
33	1958			慶應義塾創立百年記念祝典，昭和天皇行幸。	
36	1961			菅沼貞三，文学部助教授に就任。	
37	1962	11月1日 三田演説会が澤木四方吉没後33年記念講演会を開き，小泉信三「澤木四方吉と慶應義塾」と高橋誠一郎「日本美術界に及ぼした明治十四年の政変」の講演あり。澤木みね子夫人出席。		守屋謙二，ヴェルフリン『古典美術』の翻訳を美術出版社より刊行。 菅沼貞三，文学部教授に就任。	
38	1963	『三田評論』1月号に小泉信三「澤木四方吉と慶應義塾」，守屋謙二「沢木先生とヴェルフリン」，相内武千雄「沢木四方吉先生一三十三回忌に当たって一」が特集される。			

年号	西暦	歳	澤木四方吉	資料	関連事項	文化・社会
昭和 39	1964		◆澤木四方吉『美術の都』新版, 岩波書店より刊行される(1月, 再版3月) これに小泉信三「澤木四方吉と慶応義塾」再録, 巻末に「澤木四方吉年譜」掲載される。		矢代幸雄「沢木梢君の思い出」(『図書』2月号) 発表される。	国立西洋美術館で《ミロのヴェーナス》展示される。『芸術新潮』に澤木の「ミロのヴェヌスが謎」掲載される。
44	1969				守屋謙二, 大学名誉教授となる。菅沼貞三, 文学部定年退職, 非常勤講師となる(～48)	
45	1970				三田芸術学会創設50周年記念講演会を開き, 西川新次が講演。	
46	1971				西川新次, 文学部教授に就任(～61年)	
47	1972				4月22日 守屋謙二没, 享年73歳。	
50	1975		11月9日 澤木みね子夫人没, 享年78歳。鶴見総持寺に埋葬される。法名「昌徳庵麗峰玉芝大姉」。後に四方吉夫妻の遺骨は澤木家の菩提寺, 秋田県男鹿市大龍寺に移される。			矢代幸雄没。
62	1987		6月21日 澤木四方吉生誕百年記念に大龍寺境内に石碑「澤木四方吉碑」建つ。			
平成 4	1992		5月23日 文学部主催, 美学会東部会協賛による公開講座「審美学百年」開催され, 海津忠雄「澤木四方吉論」を講演。6月15日 海津忠雄と大学院学生, 男鹿市を調査。		美術史科の第1回卒業生 渋井清没, 享年92歳。美学美術史学専攻の新入生 130名。三田哲学会『哲学』第94集に「審美学百年」記念論文集「美学美術史学の現在」掲載される。	

作成：海津忠雄／加藤明子